

**グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド
(1年決算型)
愛称:グローバルMaaS(1年決算型)**

**設定来のパフォーマンスと
今後の見通しについて**

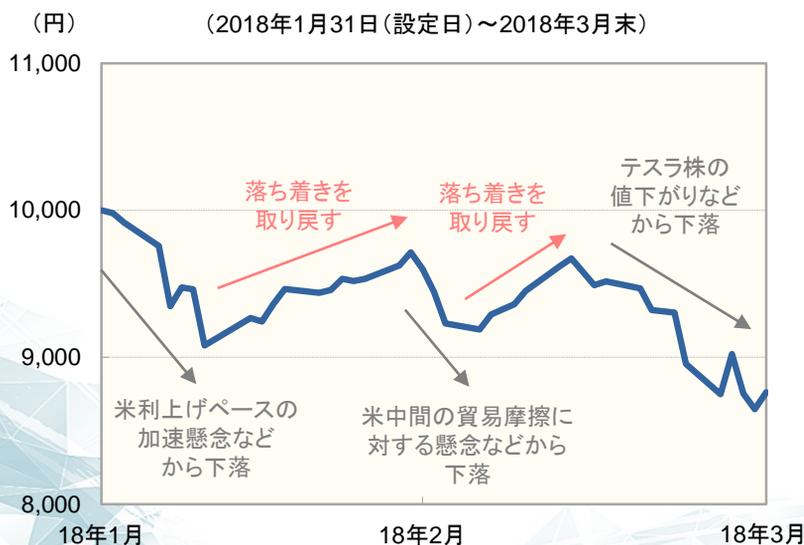
本資料では、設定来のパフォーマンスおよび、今後の自動運転やMaaSに関する見通しなどについて、当ファンドの運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)からのコメントをもとにご紹介します。

基準価額の推移について

- 当ファンドの設定来のパフォーマンスは、世界的に株式市場が軟調に推移したことや、組入上位銘柄であるテスラ社の株価が大きく下落したことなどを背景に軟調に推移しました。

設定来の基準価額は軟調に推移

基準価額の推移



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

**本資料の
紹介内容**

**テスラ社の
株価下落の背景**

**ウーバー社の
自動運転車による事故**

**今後の自動運転や
MaaSに関する見通し**

上記は、情報提供を目的として、自動運転技術を取り巻く環境について、アーク社からのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご覧いただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

設定来のパフォーマンスや、今後の見通しなどについて
アーク社のMaaS担当アナリストであるターシャ氏に聞いてきました。

テスラ社の株価下落の背景について教えてください①



テスラ社の株価は2018年3月に22%下落しました。
この要因と、それに対するアーク社の見方は以下の通りです。

※テスラ社は当ファンドにおける組入上位銘柄です(2018年3月時点)。

要因①

「モデル3*」の生産の遅れに対する懸念

*テスラ社初の
量産型EV(電気自動車)

アーク社では、テスラ社が既にスペースX社のロケット打ち上げで成功している、**AIやロボティクスを活用した生産手法によって、全く新しい生産プロセスを構築**ができると考えています。このアプローチが軌道に乗れば、非常に速いスピードでのEV生産が可能になると考えています。

なお、この生産の遅れの影響などから、3月27日に米大手格付会社ムーディーズは「社債満期に対応するために、短期的に大規模な資金調達が必要となる可能性が高い」と指摘し、格下げを決定しました。

要因②

テスラ車による交通事故

ハンドルを握る事が義務付けられている運転支援システム利用中の死亡事故であることが報道されていますが、**衝突の6秒前から複数回の警告サインが出ているにもかかわらずハンドルから手を放した状態**で衝突していることが明らかになっています。

また事故現場は衝突緩衝材が整備されておらず、もし緩衝設備が整備されていれば、大きな事故には繋がらなかった可能性もあります。なお、テスラ社は2015年以降事故が起こった高速道路を上記機能を使用して**既に85,000回走行しており、一度も事故が発生したことはなかった**、とコメントしています。

※上記は資料作成時点で明らかになっている情報をもとにしています。

上記は、情報提供を目的として、自動運転技術を取り巻く環境について、アーク社からのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

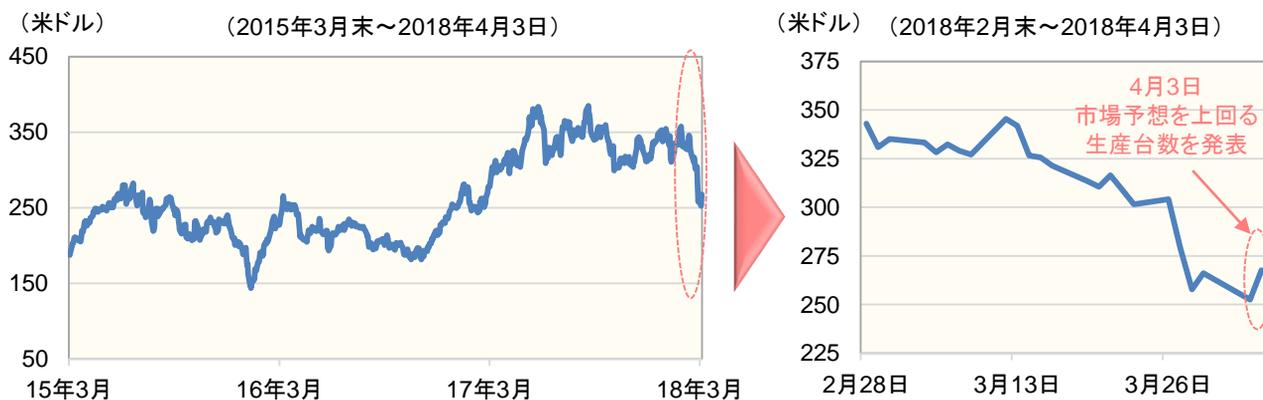
テスラ社の株価下落の背景について教えてください②



テスラ社は市場予測を上回る「モデル3」の生産台数を発表し、4-6月期の生産ペース加速に自信を示しました。

- 4月3日、テスラ社は、「モデル3」の直近の週間生産台数が、**市場予想を大きく上回る2,020台**であったことを明らかにしました。また同時に、**年内に追加的な資金調達には必要としない**ことを公表しています。これらが好感され、同日のテスラ社の株価は6%反発しました。

テスラ社の株価の推移



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

～ご参考～
テスラ社の
注目点

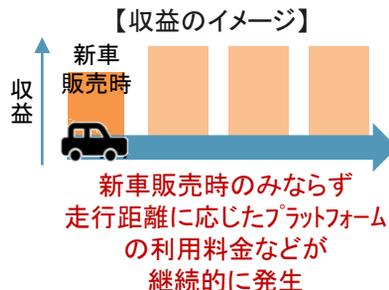


車体開発にとどまらず、
自動運転ビジネスの基盤づくりを担う

**ARK's
opinion**

- 自動運転市場では、先行企業が競争優位性を持つ
- 自動運転車からの利益は継続的かつ莫大

- 2016年末以降、同社はソフトウェアの更新によって完全自動運転車に移行できるハードウェアを全車両に搭載しています。
- 移行後には、“テスラネットワーク”と呼ばれるMaaSプラットフォームを介し、オーナーが利用していない時間に自動運転タクシーとして提供するサービスを計画しています。自動運転タクシーの売上をオーナーとテスラ社で分け合い、毎年、継続的な収益が発生することが期待されます。
- いち早いビジネス展開により、欧米市場での大きなシェア獲得が期待されます。



上記は、情報提供を目的として、自動運転技術を取り巻く環境について、アーク社からのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／愛称:グローバルMaaS(1年決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ウーバー社の自動運転車による事故について教えてください



ウーバー社固有の要因で起きた事故とみており、自動運転技術の進展に影響はないとみています。

※ウーバー社は未上場企業であり、当ファンドにおける組入れはありません。

- ウーバー社の自動運転車による死亡事故は、下記3つの要因から、**ウーバー社固有の要因で起きた、無理に無理を重ねた結果の事故**と考えています。また、公開された事故時のビデオから、実験段階にも関わらず、ドライバーが事故の直前まで前方を見ていなかったことも分かっています。
- アーク社では、この事故により自動運転実験について更なる調査が必要になるとみていますが、**自動運転技術の進歩に悪影響を及ぼすものではない**と考えています。なお、トヨタ自動車は同事故を受けて自動運転テストプログラムを停止しましたが、同社は非常に慎重なアプローチをとる傾向があります。
- 一方、例えば、ウェイモ社は「自分たちの車は歩行者を検出することができ、公道でテストを続ける」と宣言しているなど、**大半の自動運転関連会社は自動運転テストの継続を決定**しています。ウーバー社の事故は痛ましい結果を招いたものの、今後の自動運転技術の進展に影響はないとみています。

事故につながったと考えられるウーバー社固有の要因

要因①

低調な自動運転の パフォーマンス



ウェイモ社の自動運転は平均3万マイルに1回人の介入が必要となる一方、ウーバー社は13マイルに1回必要

要因②

車内のエンジニア は1名のみ



他社の多くは2名のエンジニアを配備

要因③

制限速度を上回って いた走行速度



制限速度35マイル(約56km/h)の区間を38マイル(約61km/h)で走行

※上記は資料作成時点で明らかになっている情報をもとにしています。

上記は、情報提供を目的として、自動運転技術を取り巻く環境について、アーク社からのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

当資料は、投資者の皆様にご「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／愛称:グローバルMaaS(1年決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

自動運転やMaaSに関する今後の見通しについて教えてください



自動運転の実現は社会全体に大きなメリットをもたらすため、イノベーションの進展は止まらないとみています。

- 自動運転の実現は社会全体に大きなメリットが期待されることに加え、MaaSという次世代の巨大産業の覇権を握ることに繋がるとみられることから、**政府にとって「安全性には十分に注意を払いながらも、強力に推進していきたいイノベーション」**であると考えています。
- 消費者は「自動運転によって防ぐことができた事故(起こらなかった事象なので目には見えない)」よりも「自動運転車が起こした事故」に着目しがちです。多くの自動運転関連会社は、**むしろ事故を大幅に減らすことができるのが自動運転**であると主張しています。
- 自動運転関連会社の株価は、事故の報道などから足元で軟調に推移していますが、今後の高い成長性を勘案すると、**足元の調整局面はむしろ買い場**と考えています。

各国政府の自動運転技術の進展を後押しする要因・背景



事故率の低下

- ✓ アーク社は米国の交通事故死亡者による経済損失は年間約800億ドルと推定
- ✓ また、自動運転車によって事故率が80%以上低下すると予想
- ✓ 交通事故の減少は世界共通の課題



渋滞や公害対策

- ✓ 先進国の交通渋滞は生産性低下を引き起こす
- ✓ 人口が都市部に集中し、家賃など生活コストが高騰
- ✓ 新興国は更に酷く、公害対策も急務



次世代の巨大産業に関する覇権争い

- ✓ 自動運転、MaaSの重要性は、各国政府に十分認識されており、仮に何らかの規制を検討するとしても、後ろ向きな規制ではなく、イノベーションを促進させるような前向きな規制(法制度の明確化や、テスト条件の具体化など)となる可能性が高い
- ✓ 仮に規制によって自国産業のイノベーションが停滞するようであれば、他国企業が覇権を握ることになるリスクが存在する
- ✓ 特に、自動車産業の復興を熱望する米国と、次世代自動車産業で主導権を握りたい中国との間で、激しい競争が行なわれている

上記は、情報提供を目的として、自動運転技術を取り巻く環境について、アーク社からのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

当資料は、投資者の皆様にご「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／愛称:グローバルMaaS(1年決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お申込みに際しての留意事項

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／愛称:グローバルMaaS(1年決算型)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様には帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■ ファンドの特色

- 1 世界の株式の中から主にモビリティ・サービス関連企業(MaaS関連企業)の株式などに投資します。
- 2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。
- 3 年1回、決算を行いません。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※ 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

当資料は、投資者の皆様は「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／愛称:グローバルMaaS(1年決算型)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お申込メモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	2028年1月20日まで(2018年1月31日設定)
決算日	毎年1月20日(休業日の場合は翌営業日)
ご換金不可日	換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、換金請求の受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。
〈お申込時、ご換金時にご負担いただく費用〉

購入時手数料	購入時手数料率は、 <u>3.24%(税抜3%)</u> を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

〈信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用〉

信託報酬	純資産総額に対して年率1.89%(税抜1.75%)を乗じて得た額
その他費用	目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。 ※ 組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 日本証券業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]http://www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

(50音順、資料作成日現在)